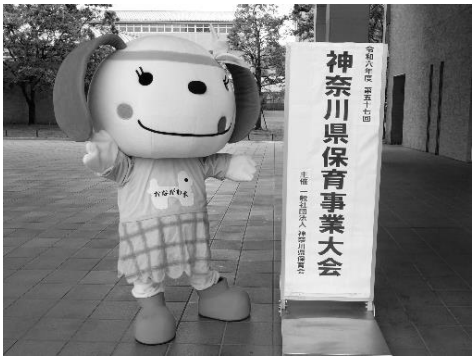
保育かながわ

発行所
横浜市中区山下町１番地
シルクセンタービル３階
３２５Ａ号室
一般社団法人
神奈川県保育会
発行人
山本昇
題字
故内山岩太郎筆

第五七回 神奈川県保育事業大会

令和六年四月二十七日(土)に鎌倉女子大学・鎌倉女子短期大学内、大ホールにて第五十七回・神奈川県保育事業大会が行われました。



主題『すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして』と題し平成二十七年より子ども・子育て支援新制度が施行され令和２年からはコロナウイルス感染症対策など、保育を取り巻く環境が大きな転換期を迎えた中、子育てに不安や孤立感を抱く保護者が増加するとともに、家庭を取り巻く経済的な不安定化や課題を抱える子どもに対する社会的支援の不足等、子ども子育てに関する社会的な課題は多種多様な姿で表面化してきていることを受け、保育園の社会的意義や役割を認識しつつ日ごろの保育実践などに基づいた研究成果の発表や討議を通して更なる保育の質の向上を目指し永年に亘り保育業務に尽力精励された功労者の表彰による保育事業の一層の発展を図ることを目的とする大会趣旨の基、神奈川県保育会理事である相馬正覚氏(二宮町・二宮保育園)の進行により記念式典が行われました。

始めに、県保育会副理事長・伊澤昭治氏(藤沢市・五反田保育園)より開会のことばがありました。多くの会員参加者や来賓の方々への御礼と、功績表彰者へのお祝いの言葉が述べられました。また、今回の開催にご協力いただいた鎌倉女子大学・鎌倉女子短期大学へ感謝の言葉が述べられ式典が始まりました。

続いて、全員で『はなのおさなご』を斉唱し、児童憲章を保育士部会会長・冨田弘美氏(鎌倉市・岩瀬保育園)が朗読を行いました。

続いて、県保育会理事長・山本昇氏(秦野市・やまゆりこども園)より主催者挨拶がありました。始めに、年頭より能登半島地震が発生し被災された方々へのお見舞いのお言葉が述べられ、ご来賓をはじめ多くの参加者へ感謝の言葉が述べられ、功労表彰者へのお祝いの言葉が述べられました。また、七十六年ぶりに職員配置基準が見直しになったことを受け、まず一歩現場の意が反映されたことに喜びを感じ、今後とも先人の意を引き継ぎ団体として公共性と透明性に配慮し、公益的な事業内容を展開していけるよう、子どもたちの健やかな成長と発達を見守る社会的な役割を果たすことを第一に考えていくことが述べられました。そして、会場提供をしていただいた鎌倉女子大学・鎌倉短期大学へ御礼のことばが述べられご挨拶となりました。

次に、七十三名の永年勤続者表彰者が発表され、表彰と記念

品授与が行われました。代表して〈施設長〉梅原正美氏（秦野市・にこにこ保育園）〈保育士〉石川恵美子氏（小田原市・下府中保育園）〈調理師等〉古本久子氏（寒川町・旭保育園）が登壇され表彰・授与となりました。

続いて、神奈川県保育賞受賞者が発表され、岩崎圭子氏（横須賀市・太田和こども園）が登壇し表彰されました。

続いて、神奈川県福祉こどもみらい局よりこどもみらい部局長・川名勝義氏、神奈川県議会議長・加藤元弥氏、神奈川県町村会会長・湯川裕司氏（山北町長）、開催市より鎌倉市長の松尾崇氏、神奈川県保育士養成施設協会より横浜創英大学学長・北村公一氏と多くのご来賓の方々よりご祝辞をいただき、今後の保育会への期待が述べられました。

最後に、県保育会副理事長・岩澤貞之氏（茅ヶ崎市・中海岸保育園）より閉会のことばが述べられ終了となりました。始めにも述べましたが、今回の事業大会は懐かしき学び舎で開催でき、私たち保育に携わる者の初心の気持ちを再確認できる良い機会となりました。

引き続き、保育会総会が行われました。

理事長・山本昇氏の挨拶より始まり、議長選出により議長を山本理事長に移して行われました。議事録署名人として、笹野つる子理事（綾瀬市・吉岡保育園）と磯野一途理事（座間市・いその保育園）が選出され、事業報告を事務局より報告いただきました。

研修会においては年間実施計画のうち感染症拡大に留意しつつ四分野（マネジメント・保育実践・乳児保育・食物アレルギー対応）を神奈川県からの指定を受け実施。

保育園利用者相談室の運営については、第三者委員・運営委員合同会議と研修会、参考図書配布等の事業を実施。

水道料金改定に伴う対応として県への要望活動の実施。

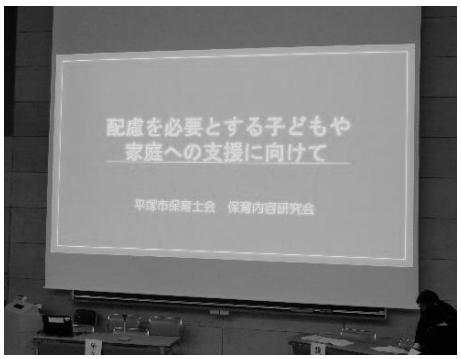
また、会計報告と監事監査報告が行われました。

続いて、第一号議案より、一般社団法人神奈川県保育会の改選について二年一期とし今回改選時期となったこと、第二号議案より、定款の変更について審議されました。変更箇所としては、保育士会が保育会の部会となったことを受け、内容を変更することとなりました。審議について会員の承認を受けました。

引き続き役員交代にあたり令和六・七年度理事の紹介がされました。承認を受けて引き続き山本昇氏を理事長とし新たな体制の紹介があり総会が終了しました。

研究発表

今回は、大ホールにて三つの研究発表が行われました。



①平塚市テーマ「配慮を必要とする子どもや家庭への支援に向けて～特性理解と支援方法～」

【発表要旨】

日ごろ保育をしていく中で配慮を必要とする子どもが増えているのを感じ、保護者、保育者が子どもの特性を理解しながらお互いの気持ちを尊重し、認め合い励まし合いながら生活するために、どのような理解・支援ができるのか考えていくことにした。

平塚市にある様々な資源（サポート体制）との連携をとり、継続的に発達支援コーディネーターを育成しながら、切れ目のない多様な支援につなげ、氷山モデルを用いて特性理解をし、見立てと支援の方向性を考えていく。保護者と信頼関係を築きながら、ひとりひとりの違いを認め良さを引き出し、理解しようとする、個々に応じたオーダーメイドの保育内容を考え、様々な支援方法を実践していくために、いろいろな資源を活用しながら、園全体でチームとなり、まい進していく。

発表後に、発達支援の支援並びに保護者とこどもとの信頼関係を築くことはとても難しい、保育を進めていく中で苦労することも多い。平塚市の場合は保育士をコーディネーター

に養成し保育士のスキルアップという手段に取り組んでいることがとても素晴らしいと感じた。支援するための信頼関係を築く方法を学ぶことができ、とても参考になったというまとめがなされた。

②藤沢市テーマ「子どものより良い育ちと安全・安心の環境づくりにむけた関係機関とのネットワーク」

【発表要旨】

藤沢市の認可保育園数は、公立十四園、法人等七十五園で、そのうち社会福祉法人立保育園園長会の下部組織である藤沢市民間保育園主任保育士会では「子どものより良い育ちと安全・安心の環境づくりにむけた関係機関とのネットワーク」をテーマに、他機関との連携の現況についてアンケートを行い更に様々な関係機関の中から『民間児童発達支援事業所』『保育所等訪問支援』『巡回コンサルテーション』について理解を深めることとした。

様々な調べの中で、保育園と事業者間の連携、保護者支援、小学校との連携等課題も出てきたが、独自の巡回コンサルテーションは年々成果を上げている。これからはインクルーシブな保育を目指して、共に育ちあう環境を作ることができるよう、他機関とともに、地域の保育や子育てを支えていく。

発表後に、議長より保育所等訪問支援を活用している人は増えている。ただ、受給者証が必要でその為に手続きをしないといけないことや、料金がかかる事などの理由で保育園側から進めることはかなり難しいと思われるが、その点はどうかという問いかけがあり発表者から、利用したいという保護者が子ども家庭課とプランニングも行わなければいけないというところで、ハードルは高いという回答があった。

また、『『保育所等訪問支援』について発表の中の『課題と感じたこと』はかなり辛口評価だが、支援が必要な子のスキルアップを図るには良い制度なので、是非進めていって欲しい。」というまとめがなされた。

③開成町テーマ「地域と繋ぐ小さな町の防災教育　―富士山と酒匂川の歴史から学ぶ過去・現在・未来（つぎ）へ―」

【発表要旨】

開成町の社会福祉法人はぐくみ会が運営する3園では、酒匂川流域の水害が起こり得る地域性から、「地域と繋ぐ小さな町の防災教育―富士山と酒匂川の歴史から学ぶ過去・現在・未来（つぎ）へ―」をテーマに富士山と酒匂川の歴史を学ぶと共に、水害対応の紙芝居やカルタの制作による職員の意識とチーム力の向上を目的として取り組んだ。

実際に紙芝居制作にあたっては、外部講師を招いて研修会を行い、リモートでお互いの取り組みや成果を伝え合うことで、災害への取り組みを再構築しながら連携を深めた。職員ばかりでなく、年長児も酒匂川ふれあい館の見学をして知識を深めることができた。

紙芝居は独自のキャラクターなども登場し、子どもが恐怖心を持たない様工夫したり、クイズを盛り込み、楽しみながら学ぶことのできる教材となった。三園は、これからも紙芝居の内容の見直しや演じ方の工夫をし、更に地域や保護者とも連携し、災害への意識を深めていくこと等を課題とし、命を守る実践をしていく。

発表後に、紙芝居やペープサートが子ども向けに分りやすくできている。自分が住んでいる所がどんな場所かということを子どもたちが理解できる様に工夫することで子どもたち自身で行動できるように出来ている。是非皆さんも参考にして頂きたいというまとめがなされた。

第六四回 関東ブロック 保育研究大会

第六四回関東ブロック保育研究大会が『すべての子どもの権利と育ちを保証していく社会の実現をめざして』と題して令和六年七月四日(木)五日(金)新潟県新潟市朱鷺メッセにて開催されました。

令和五年四月に「こども基本法」が施行され、「こども家庭庁」も新設されました。こどもの誕生から幼児期までのステージに係わる基本的な指針策定を含む「こども大綱」を推進

していくことになりました。

私達は、社会情勢や制度の動向を的確に捉え、必要とされる役割や責務を適切に理解し、こどもまんなか社会の実現にむけて、地域の子育て支援の担い手として新しい取り組みにも備えていく必要があります。

基調講演では、新潟青陵大学の特任教授　伊藤充氏による「地域環境と保育―日本最初の保育所の保母・赤澤ナカ―」と題して、新潟で保育所が開かれることになった背景やその歴史などについてお話をいただきました。日本で最初の保育者（保母）赤澤ナカ氏の保育に対する情熱、保育の基本的な考え方は現在の私達にも通ずるところがたくさんありました。

記念講演では、浪曲師　玉川太福氏による「和製ミュージカル!? 浪曲で楽しむ”保育あるある”」多くの人が浪曲を聞くのは初めてでしたが、会場が大きな笑いに包まれ、大変和やかでした。保育あるあるは、皆さん大きく頷く姿が印象的でした。

翌日は、第1から第8分科会特別分科会に分かれてそれぞれのテーマに沿って研究発表が行われました。神奈川県は、第八分科会の議長を拝命し、上越教育大学の杉浦英樹教授のもと、公立保育所・公立認定こども園等使命と地域社会での役割について、四県都市の研究について発表と意見交換がありました。杉浦教授からは、それぞれの県都市へのアドバイスと地域保育の在り方についてお話がありました。

今大会を通して、どこの県市町でも保育者の人材不足は喫緊の課題として深刻化し、業務量の増加等、保育者の負担は今なお軽減されない現状ではあるが、専門職としての質の高い保育を提供するために関係機関が一丸となって取り組み、訴えていかなければいけないこと、保育の社会的意義と役割、保育実践などについて、関東ブロックの保育者が一堂に会することにより、対話し、学びを深め、保育の質・専門性の向上と関係者の連携を深めることができました。

次回は、令和七年七月に神奈川県相模原市で開催されます。

県・市町児童福祉主管課長と県保育会との連絡協議会

令和六年七月十日（水）十四時より横浜ホテル・プラムにて、県・市町児童福祉主幹課長と県保育会委員との連絡協議会が開催されました。

神奈川県より次世代育成課課長、深石薫氏。保育・待機児童対策グループ、グループリーダー渡邉友和氏。十三市町（横須賀市・平塚市・鎌倉市・藤沢市・小田原市・茅ケ崎市・逗子市・秦野市・厚木市・伊勢原市・座間市・綾瀬市・愛川町）より課長の皆様にご出席いただき相馬正覚理事・総務委員長（二宮保育園・中群）司会進行のもと会議が行われました。

初めに、宮田丈乃副理事長（長井婦人会こども園・横須賀）より、開会のご挨拶があり、酷暑の中の出席の御礼と、日ごろのこども家庭庁の制度改正等に伴う現場の対応や、安全・安心な生活の保障についてお話しされました。県保育会・山本昇理事長（やまゆりこども園・秦野市）より、主催者挨拶があり活発な意見交換を交わしてまいりたいとお話しをいただきました。

続いて、講師である神奈川県次世代育成課課長、深石薫氏の紹介と、出席者の紹介が行われ議長を山本昇理事長に代わり「子ども・子育て支援推進条例の改正」「子ども・若者みらい計画（仮称）の策定」について基調講演が行われました。

「子ども・子育て支援推進条例の改正」については、平成十九年十月一日に施行し、見直しの時期に来ている。平成十九年の時点では想定していなかった課題（児童虐待・いじめ、ヤングケアラー、子どもの貧困等）が出てきたことをあげられ「こども一人ひとりが自分らしく幸せに暮らせる社会を実現し未来を担う人材を社会全体で育む」という条例の改正目的や子どもの権利擁護、子どもの健やかな育ちのための施策困難を抱える子どもへの施策子育てしやすい社会環境づくりなど、個別施策の説明があり改正条例素案のポイントをわかりやすく説明頂きました。

次に「神奈川県子ども・若者未来計画(仮称)策定の概要」として、計画の位置づけや構成イメージ、基本理念の説明がありました。都道府県こども計画等第一〇条に「都道府県は、こども大綱を勘案して、都道府県こども計画の策定に努める。その際、こども施策に関する他の計画と一体的に策定することができる」とあり、神奈川県では、若者未来計画を策定することになった経緯をお話しいただきました。

想定される基本理念としては「こどもの目線に立った施策の推進を通じて、子ども一人ひとりが自分らしく幸せに暮らせる社会を実現し、未来を担う人材を社会全体で育む。」となっており、基本方針は、「子どもの目線に立った権利・利益の尊重」「子育てしやすい社会環境の整備」「社会の一人ひとりが子育て当事者」の三点。

計画重点施策事項としては一つ目に「ライフステージを通じた子ども・若者施策に関する事項」があり、その中には子ども・若者の社会への巣立ちを応援する、かながわつばさプロジェクトがあります。三十九歳以下の生活困窮世帯、被虐待経験者、不登校・ひきこもり、ヤングケアラーなど進学や就職、居住に関して困難を抱えている人に受験費用や一人暮らしの費用などを支援する制度です。

二つ目は「ライフステージ別の子ども・若者施策に関する事項」で、「子どもの誕生前から幼児まで」「学童期・思春期」「青年期」と分かれています。私たち保育関係者といたしましては、特に「子どもの誕生前から幼児期まで」が、一番気になるところになります。内容としては「切れ目のない保健・医療の確保。子どもの成長の保障と遊びの確保など」とあり、待機児童対策、こども誰でも通園制度、病児保育、障害児・医療的ケア児、外国籍の子ども、小学校との接、保育士の確保・育成、処遇改善・配置基準の改善が、こども大綱に記載があるものとのことでした。

計画重点施策事項としては「子育て当事者への支援に関する事項」として、子育てや教育に関する経済的負担の軽減、共働き・共育ての推進等を挙げ子育て情報の入手や子育て支援情報の検索、子育て相談等ができる「かながわ子育てパーソナルサポート」の紹介や、「社会全体で推進するための施策」として、こども・若者の社会参画・意見反映、子育て支援人材の確保・育成・支援。子育てにやさしい社会づくりのための機運醸成等を挙げ、令和五年度から行っている「子ども目線会議」の紹介がありました。

条例の基本的施策に「子どもの意見表明の機会の確保」とあり、県は子どもが社会参画の機会を確保され、社会の一員として意見を表明することができ、その意見を施策に適切に反映させ、反映結果について意見を表明したこどもに伝えるために必要な措置を講ずるものとする、とされています。こどもの意見反映に向けた、「子ども目線会議」「子ども施策提案事業」の紹介があり、積極的なこどもの意見だけでなく、多様なこどもたちの意見を聴く場を設置し、若者の自己肯定感や自己有用感を高める効果も期待しているとのことでした。高校生の生の声を聴く機会や、対面では伝えづらい子や、表現が苦手な子への場として、匿名のオンライン方式の設置など子どもの意見を聴くことの重要性をお話しされました。

その後は、内容に対する質疑応答が行われ、基調講演は終了しました。

休憩後、各市町村主管課長様との意見交換が行われました。

各市町村でも、子ども・子育て支援推進条例の改正にあわせて、子ども計画の策定を進めていて、その方法や進捗状況、課題についての意見がだされました。

進捗としては、昨年度中にニーズ調査をすませて検討を始めている、今まさに保育所や直接対象となるこどもへのアンケート調査をしている、これからパブリックコメントをとるなど、それぞれでしたが、各市町村で抱えている状況が異なるため、スピード感も市町村により異なっている様でした。

課題としては、対象が「出産前から三九才まで」と幅広いため、計画のピントをどこにあわせるか、関わってくる幅広い所管同士の連携や協力、また乳幼児や小学生など低年齢の対象児童からのニーズをどの様にすいあげていくかという様な意見がだされました。

乳幼児からのニーズ調査については、小田原市から、保育園の協力を経てワークショップ形式で園児の意見を聞いてみたという参考にできるお話を伺うこともできました。

また、ベースは子育て支援になっていくが、学校関係との連携が少ないという意見もありました。専門性が違うとはいえ学校は子どもが長時間過ごす

場所ですので、学校での取り組みや場所提供なども必要だと感じているというお話があり教育と福祉は、一体化がすすんできている部分と、別の枠組みになっている部分がまだあるのだと感じられました。

ニーズ調査の中から見えてきた保育が関係している課題としては、今後の保育利用のニーズと量のバランスや、保育士確保、子どもの居場所作り（居場所作りはどの年齢にも必要で大事ですが）が、各市町村共通にあるようでした。

各市町村からのご意見を受けて、深石課長も、児童だけでなく、守備範囲が広がったことや、学校側の事情もあり難しいことについて触れつつ、県立の中高生については、学校の協力を得てのニーズの早期発見や待つのではなく、こちらから子どもの中に入っていくようにしているが、小学生や幼保の児童は検討中であること、子どもの意見の中には、県ではなく、市町村で対応してもらった方が良さそうなものもあるので今後相談させていただきたい。

また、待機児童は減少しているが、保留児童は増加している現状の中、減収への対応として誰でも通園制度の活用や障がいのお子さんに特化する事業、子ども食堂をするなど、多様な展開を考えていくのも一つの方法ではないかというお話もありました。

次に、質疑応答では、県保育会より、０歳児の利用希望児童の減少や育休延長のための保留待ち問題、保育人材の不足、人材特区を雇用や育成に使用できないか、級地格差の是正について等の質問がだされ、県や保育会委員との活発な意見交換がされました。

すぐに対応が難しい問題ばかりでしたが、山本理事長より級地格差についてはぜひ検討して欲しい、またピークアウト対策は来年の議題にしていきたいとの話があり、条例の改正作業について、「こどもまんなか社会」を忘れずに進めて欲しいということばで、質疑応答を終えました。

会の最後には、伊澤副理事長より「こどもまんなか」とは、こどもたちが自由闊達に意見が言える場所、雰囲気を作っていき、社会の一構成員である意識を持てるようにすることもあるのではと述べられました。今回の連絡協議会では、県の具体的な取り組みや考え、各市町村が抱える課題を知りその中で、こども園や保育所ができること、すべきことを考える機会になったように思います。

第六七回 全国保育研究大会

令和六年十月十七日より二日間奈良県で行われました。

初日はオープニングアトラクションからスタートです。マリンバ奏者・松本 真理子氏と門下生による演奏はとてもダイナミックで、参加者からは温かい拍手が送られました。

次は式典です。児童憲章朗読・物故者への黙祷が終わり、主催者挨拶として全国保育協議会奥村会長、全国社会福祉協議会笹尾常務理事、奈良県保育協議会栗木会長から今大会への思いを聞く事ができました。

その後、山下県知事、仲川市長より来賓祝辞がありました。

続いて表彰が行われ、全国保育協議会顕彰・全国保育協議会特別感謝・全国保育協議会会長表彰を全国であわせて二二六名の方が受賞されました。神奈川県からは六名の方々が栄誉ある会長表彰を受け、その功績がたたえられました。受賞者の皆様おめでとうございます。

式典の最後には奈良県保育協議会米田副会長より大会宣言が読み上げられ、参加者の熱い拍手により採択されて式典が滞りなく終了。

その後は子ども家庭庁による行政説明「保育行政の動向と課題」があり、今後の保育行政に関することを学べる良い機会でした。次に全国保育協議会奥村会長による基調報告、作家・一般社団法人日本歌手協会理事長合田道人氏による記念講演が行われ、一日目の最後は来年度開催地である東京都の挨拶により締め括られました。

二日目は分科会です。各分科会では全国の方々との意見交換もでき、保育に対する理解をさらに深める事ができました。

保育の日前夜祭

令和六年十二月五日(木)ホテル プラムにおいて、第四五回「保育の日前夜祭」が開催され

ました。当日は、長年にわたり子ども達の育成に多大の貢献をなされた受賞者の皆様をお招きし県行政、保育関係者が一堂に会してお祝いしました。また、日頃より保育の現場にて子ども達の成長を支えている皆様の労をねぎらい、今後も保育事業のより一層の進展に資する事を確認し合いました。

坂巻副理事長の「開会のことば」に続き、宮田副理事長より受賞者の皆様にお祝いの言葉が述べられました。

☆神奈川県保育賞

愛川町（愛川町立半原保育園）
小倉　みさき様

三浦市（上宮田小羊保育園）
酒井　あいり様

秦野市（南秦野保育園）
鈴木　歩様

厚木市（翼咲保育園）
渡澤　倫子様

☆叙勲

秦野市（元なでしこ第2保育園）
多田　佐智子様

横須賀市（元日の出保育園）
阿部　和子様

☆厚生労働大臣表彰

伊勢原市（大原こども園）
萩原　敬三様

横須賀市（衣笠保育園）
大芝　和枝様

大和市（大和市立福田保育園）
曽根　由紀子様

愛川町（愛川町立高峰保育園）
髙橋　圭子様

愛川町（愛川町立春日台保育園）
本間　美帆様

大井町（栄光愛児園）
髙橋　美穂子様

開成町（酒田保育園）
瀬戸　知子様

☆全国保育協議会会長表彰

鎌倉市（こばとナーサリー）
飯野　幸江様

座間市（座間市立栗原保育園）
本多　弘美様

小田原市（下府中保育園）
吉村　匡美様

開成町（酒田みずのべ保育園）
露木　勇友様

横須賀市（玉成保育園）
渡辺　昌代様

座間市（座間市立相武台保育園）
森　さなる様

以上の皆様方受賞おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。受賞者の方々からは受賞の喜びや現場の子ども達への思いや周囲への感謝の気持ちが伝わるご挨拶を頂きました。

また、ご臨席頂いた神奈川県児童福祉審議会 いそもと委員長、神奈川県次世代育成課　深石課長、神奈川県社会福祉協議会 篠原会長、神奈川県保育士養成施設協会 北村会長、神奈川県ゆりの会 内山会長からも、お祝いや励ましの言葉を頂きました。

式典後に行われた三名の音楽家によるコンサートはとても素晴らしい芸術鑑賞の時でした。

ソプラノ歌手 下園理恵氏・ヴァイオリニスト 清岡優子氏・ピアニスト 飯田彰子氏の奏でる音、声、響き、リズムはあっという間に会場内を魅了しました。

そしてオペラ「カルメン」を歌いながら、男性陣の側らに寄り添う姿に会場内は笑いと拍手で大盛り上がり。又情熱大陸のヴァイオリンソロに大きな手拍子が自然に起こりとても楽しく素晴らしい時間でした。

プロの方々から「我々がこうしてコンサートができるのも保育園があってこそなのです。」と力強いお言葉をいただきました。

懇親会は藤田副理事長の乾杯のご発声で和やかに始まりおいしい食事と温かく楽しい雰囲気の中、参加者同士での親交を深めることができ終焉を惜しまれながら伊澤副理事長の「閉会のことば」にて閉会となりました。

キャリアアップ研修

令和六年度の神奈川県保育会研修は、令和六年一月十八日(木)より始まり、令和七年二月二十一日(金)まで、全十一講義を実施しました。

保育士キャリアアップ研修としてマネジメント分野五回食育・アレルギー分野三回、乳児保育分野四回開催しました。

【乳児保育にて】

令和六年十月三日(土)神奈川県民ホールにて神奈川県保育会主催の保育士キャリアアップ研修を開催。

乳児保育分野の第二回「乳児保育の指導計画記録及び評価」講師　鎌倉女子大学　短期大学諸島教育学科　准教授　寶川雅子氏

今回は①指導計画について知る②記録の意義・評価の意義について知る③計画作成、記録作成、評価を行う上での子どものとらえ方についての３点を学びました。

①指導計画について知る

「指導計画は何のためにあるのか」「指導計画にはどのような種類があるのか」「計画書を立てるのは好きか苦手か」についてグループワークしました。指導計画を立てることは大事という認識はあっても様々な理由で苦手と答えている人が多くいました。

②記録の意義・評価の意義について知る

自分の園の保育理念・保育方針・保育目標をお互い伝えあう時間がありました。そして保育園は、保育の方針や目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて、保育の内容が組織的・計画的に構成され、保育園の生活を通して、総合的に展開されるよう、全体的な計画を作成しなければならない。その全体的な計画を基に、年間計画を作成し、更に月案、週案、日案などにおろしていく。わからないことがあったら指針を見る。迷ったら指針。指針を有効利用するといいということ。また評価とは子どもが出来た出来ないを書くのではなく、自分の保育がどうだったのかを書くことで振り返りが出来、次へのつながりとなることをお話しいただきました。

③計画作成、記録作成、評価を行う上での子どものとらえ方について

各自、持参した画像をグループの中で、その子どもの気持ちを想像してみる時間を持ちました。保育に活かせる計画書を作成するために、子どもを理解する視点を養うことが大事であることを教わりました。

寶川先生より最後に・・・記録はややこしい、苦手と普段思っている方も、実際は書けているので、出来ている自分をほめてあげましょうという温かいお言葉をいただきました。

本研修を通して改めて子どもの様子を踏まえた保育計画評価子どもを理解するための見る力観る力の大切であることを学ばせていただきました。

保育のつどい

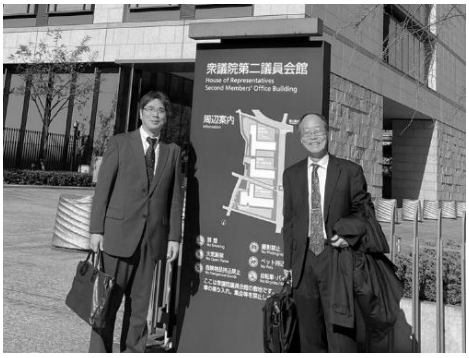
令和六年十二月七日(土)神奈川県立音楽堂にて、第六十回「神奈川県保育のつどい」が開催されました。

第一部の記念式典では黒岩知事より受賞者八名に賞が贈呈されました。当日は、保育士養成校の学生含む、関係者七五〇名が参加され、保育賞にふさわしい華やかな贈呈式となりました。

第二部の記念講演では「保育士を目指す皆さんへ」という題目で養成校より選ばれた代表がインタビュアーとなり受賞者の皆さんに質問するという形式で行なわれました。

◇神奈川県保育会の広報誌『保育かながわ』は、赤い羽根共同募金の助成金で発行しています。

国会議員要望活動



全保協会長会議の日程に合わせて十二月三日に全国の国会議員に要望書を手交する活動に副理事長等三名で参加しました。県所管内選出の衆議院議員四名と参議院議員二名の合計六箇所の議員会館にある事務所を訪問しました。

内容は、全国統一の活動のため、過疎地対策なども含まれますが、保育士や調理員の配置基準の改善や通称「だれつう」等、八件の要望を行いました。詳細は会報ぜんほきょう一月号をご覧下さい。